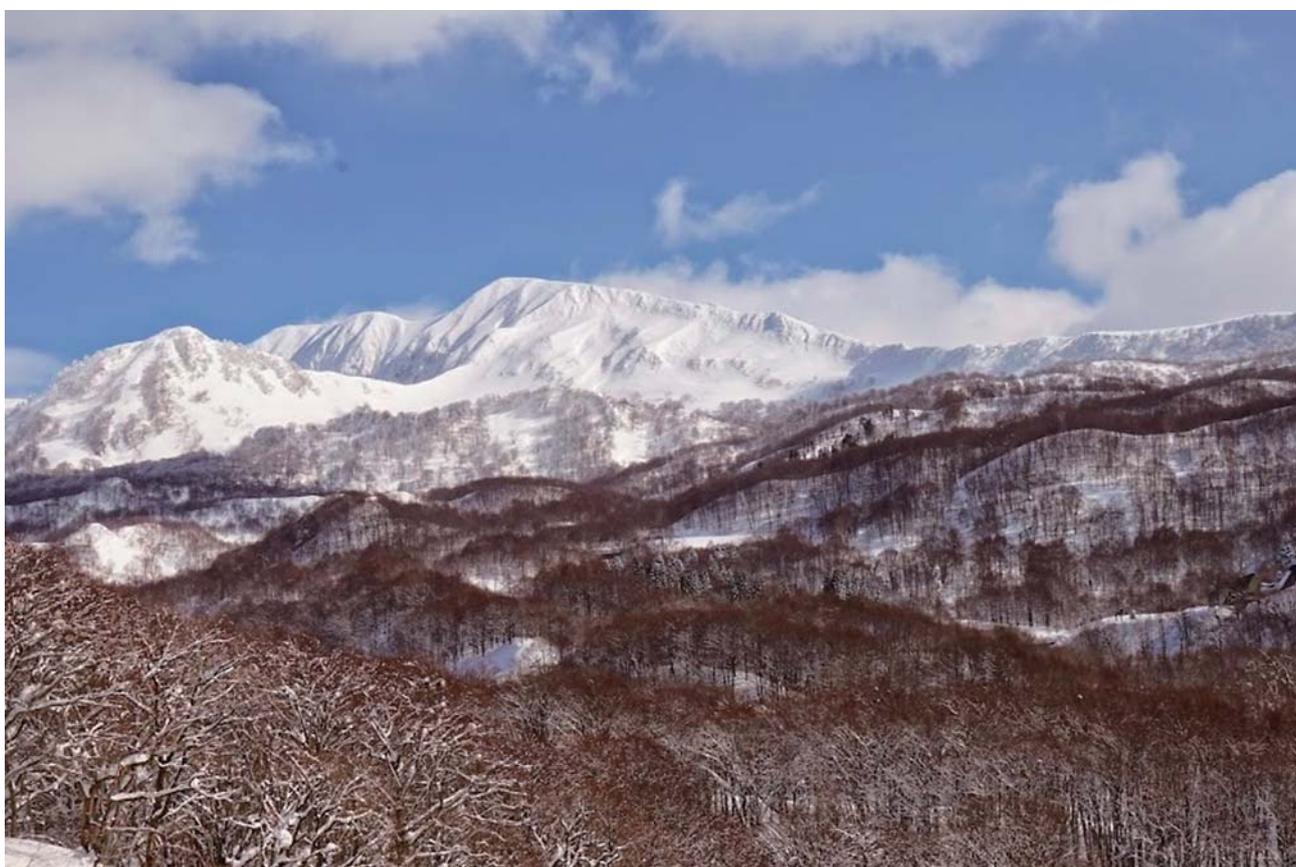


めでいかすとり
Médicastre



「 雪の稜線 」

鶴岡地区医師会

27年 **2**月号

日時：平成27年1月28日(水) 19：00～
場所：鶴岡地区医師会 3階講堂

小児救急地域医師研修会抄録

鶴岡市立荘内病院小児科
佐藤 紘一

平素より鶴岡市休日夜間診療所（以下、にこふる）で、多くの先生方から小児診療にご協力頂きありがとうございます。今年の研修会では①鶴岡市における小児救急医療への取り組み（2014年の第28回日本小児救急医学会での発表内容より抜粋）、②小児科医以外の医師が小児を診察するときのポイントについてお話しさせて頂きました。

初めに鶴岡市での取り組みについてですが、当市では小児救急医療を守るべく、平成16年から開業医向けの小児救急講習会、平成19年から保護者・保育士向けの小児救急医療講習会、平成22年10月から休日夜間診療所の診療時間拡大、平成24年4月から当院救急外来で時間外診療加算の徴収の4つの取り組みを開始しました。その結果、平成21年は6,902人であった小児救急患者が、平成25年には2,768人まで減少し、軽症患者の受診が抑制されました。小児科の年間入院患者数、及び救急外来からの小児科入院患者数はほぼ横ばいであり、結果として救急外来を経由する入院率は上昇傾向にありました。この結果からも小児の救急外来の利用状況はより適切なものになってきていると考えられます。また、調査期間中に入院した重症児の中で、受診の遅れによる重症化を認めた症例は認めませんでした。当市では取り組みにより軽症患者の受診を減少させることに成功しましたが課題もあります。一つ目は、休日夜間診療所は小児科・内科を標榜していますが、平日夜間に



ついては約半数の担当医が6歳未満の受診を不可としていることです。これにより、小児患者がにこふるで断られて当院を受診するという問題点があります。これに対して当科に勤務する小児科医が医師向けの小児救急講習会を開いていますが参加者は少ない状況にあります。二つ目は、小児科医による診察を希望して休日夜間診療所を避ける保護者がいることです。これに対しては三次医療も行わざるをえない当院の機能と役目、そして救急外来混雑によるトリアージ遅れや重症患者の処置遅れの可能性について、小児救急医療講習会などで小児科医が市民に啓蒙活動を行っており、今後も精力的に活動してゆく予定です。

次に小児科以外の先生方が「にこふる」で小児を診療される際の、小児科への紹介のタイミングと保護者への説明のポイントなどを中心に書かせて頂きます。字数の関係上、今年の抄録の方が詳細に書いていますのでそちらもご参照下さい。

まず問診ですが、大切なことは体重と経口摂

取です。

小児の場合は体重によって薬の量が大きく変わりますので体重の把握が大切です。

そして経口摂取ですが、小児では体調不良の時に食事を摂れないことは多々あります。ただし、水分摂取が可能であればすぐに小児科受診をしなくても翌朝の受診でまず問題ないと思います。脱水の有無は毛細血管再充満時間 (Capillary refilling time) が有名ですが、わかりやすいのは泣いている時に涙が出ているか、口は潤っているか、排尿があるかだと思います。半日以上排尿がないようであれば脱水を疑うのでご紹介下さい。

次に各論に入ります。

まずは発熱です。まず3か月未満であればご紹介下さい。感冒症状があればアセトアミノフェンとアスピリン・ムコダインを処方します。テルギンGは痙攣歴がある小児には処方しないで下さい。

ここでのポイントは生後半年未満の児には処方控えた方がいいという点で、薬剤の添付文書には、3か月未満は安全性が確認されていないと書かれています。小児科医でも5-6か月までの小児には処方しない先生が多いと思います。

また、初めて坐薬を使う保護者には、坐薬は2-3時間しか効かない、0.5度や1度くらいしか下がらないかもしれない、でも少し熱が下がって子どもの機嫌が良かった時間に水分補給をして欲しいと説明して頂けると、保護者の不安も和らぎ、同日の頻回受診も減ると思います。

小児は上気道感染中や感染後に中耳炎を合併することはよくありますので、耳痛を訴える小児では耳鏡があれば鼓膜を確認して頂き、痛みがあればアセトアミノフェンを処方します。

症状がない発熱は尿路感染に注意が必要です。熱のみ3-4日続いている場合は尿検査を行います。尿路感染の既往も問診します。

次は呼吸器疾患です。吸気性喘鳴の代表はグループ症候群で、ボスミン吸入を行います。1回の吸入では数時間後に症状が再燃することがあるのでデカドロンエリキシル (1ml/kg) を処方すると再燃率を抑えられます。ここで見落としとしてはいけないのが急性喉頭蓋炎です。唾液も飲み込めない場合はご紹介下さい。

呼気性喘鳴の代表例は喘息発作で、メプチン吸入を行います。吸入後も酸素を必要とする、呼吸苦が改善しないような場合はご紹介下さい。

次は嘔吐・腹痛です。子どもで多いのは便秘ですので、前日に排便があったとしても2ml/kgで浣腸をしてみてください。血便が出た場合でも便の周りに少量付着しただけで、本人が元気であれば翌日小児科受診でよいと思います。下痢や嘔吐があっても血便がなく、脱水が疑われないのであれば緊急性は高くないと思います。水分を摂っても嘔吐する場合は、ナウゼリン座薬を使用し、少し休んでからおちょこ1杯分くらいの水分を1口飲んで、20分程度様子を見て嘔吐しなければ繰り返して下さいと説明して下さい。胃腸炎症状で見落としとしてはならないのが心筋炎です。胃腸炎症状でもぐったりしている時はご紹介ください。



最後に抗菌薬についてですが、当地の小児科開業のほとんどの先生方は確定診断前に抗菌薬を処方しません。これは全国的にもめずらしく、とても優れた医療行為と考えられます。広域セフェムやニューキノロンの内服を処方されてからですと、尿路感染の見落としや菌血症を見落とす可能性があるからです。適切な抗菌薬使用により確定診断がしやすくなり、耐性菌の増加も減らせると思います。

外来で抗菌薬を使用する例としては、溶連菌感染症や中耳炎（軽症ならば抗菌薬は不要）でのAmoxicillin、伝染性膿痂疹のCefalexin、マイコプラズマのClarithromycinやAzithromycinだと思います。

当院では重症の感染症に対して抗菌薬を投与する場合は、投与前に血液培養採取を徹底しております。

その他困ったときはご紹介ください。元気であれば翌日の午前外来で結構だと思います。

最後に、4月以降は小児科常勤医が8名に減ると思われます。南庄内の最後の砦として増床したNICUでの新生児医療と2次・3次救急医療をしっかりと行うためには、平日夜間の「にこふる」への6歳未満の小児受診を不可としている先生のご協力、元々ご協力頂いている先生からは設定されている年齢をもう1歳引き下げてご協力頂く事が不可欠です。

全てはこの地域の子どもたちのために、地域の先生方の小児医療へのご協力を今後ともよろしくお願い致します。

鶴岡地区医師会新年会

日時：平成27年1月16日(金) 18:30～
場所：新茶屋

今年の新年会は穏やかな天候の中、33名のご来賓をお迎えし、総勢85名で行われました。

はじめに三原会長より新年のあいさつがあり、榎本政規鶴岡市長と酒田地区医師会十全堂の栗谷義樹会長よりご祝辞を賜り、渋谷耕一鶴岡市議会議長による乾杯の御発声で宴に入りました。

三原会長のあいさつの中で吉田松陰の言葉「人は、志と仲間成長する」を紹介されておりました。志を高くし、参会された皆さまを仲間としてともに成長していきたいとお話しされておりました。今年1年の成長の糧となるお酒を酌み交わし、より一層親交を深められたことと思います。私たち職員も日々精進し成長していきたいと思っております。

総務課 井上 祐司



日時：平成27年2月4日(水)
会場：グランド エル・サン

伊藤末志先生 厚生労働大臣表彰受賞祝賀会

鶴岡市役所健康課 小林 まゆみ

立春にふさわしく穏やかな一日となりました2月4日に、母子保健家族計画事業功労者として厚生労働大臣表彰を受けられました、鶴岡市立荘内病院副院長（兼）地域医療連携室長の伊藤末志先生の祝賀会が開催されました。

この表彰は、母子保健施策の推進に功績のあった個人、団体が表彰されているもので、本年度は全国で58個人、3団体が選ばれ、山形県では伊藤先生お一人でした。

今回の表彰を受け、鶴岡地区医師会と荘内病院、鶴岡市の有志で実行委員会をつくり祝賀会を企画し、約140名のご出席のもと盛大に開催されました。

祝賀会は、ご参会の皆様の温かい拍手の中、伊藤先生ご夫妻の入場で始まりました。実行委員長長の三科武荘内病院院長のあいさつ（加賀山部長代読）に続き、榎本政規鶴岡市長、三原一郎鶴岡地区医師会長にご祝辞をいただき、地域の小児科医療と母子保健を支えた功績をたたえられ、伊藤先生のお人柄がご紹介されました。

受賞された伊藤先生からは、昭和56年に荘内病院に赴任して以来、基幹病院の医師として、地域医療や母子保健に関わることは使命であり求められるのは当然のこととし、主に2つのことを振り返って話されました。一つは、旧鶴岡保健所の嘱託医となって従事した「乳幼児健康診査」や「発達経過観察健診」、「肥満予防教室」のことでした。言語発達や肥満は当時も大きな課題だったようです。肥満については、平成3年に病院に肥満外来を開設したこと、平成5年に教育委員会の小中学生の健康診断に生活習慣病予防健診を導入したことを話され、改めて、現在の基礎を築かれた先生のご功績に気づかされました。

もう一つは、「鶴岡市すこやかな子どもを生き育てるネットワーク推進委員会（すこやかネット）」の立ち上げの様子や活動について振り返られました。会場には、すこやかネットの委員をされた方もおられたようなので、先生のお話をお聞きしながら、懐かしく思い出されたのではないのでしょうか。

また、このように、病院外での活動が多くあったことから、病院のスタッフのみなさまへの感謝の言葉も頂戴いたしました。

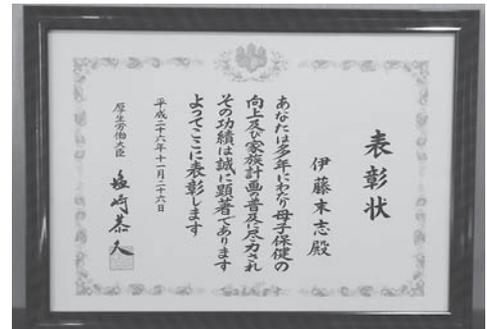
次に、石原良荘内病院副院長に乾杯のご発声をいただき祝宴に入りました。

祝宴では、伊藤先生ご夫妻は席に着く間もなく、各テーブルを回られ、皆様と歓談されていました。終始、笑顔でいらっしゃった伊藤先生ご夫妻のお姿が大変印象的でした。

祝宴では、「伊藤先生の活動の足跡」としてまとめました「スライドショー」が上演され、出前子育て懇談会の写真など、先生がお母さんたちに囲まれ生き生きと語る様子が紹介され、土田鶴岡地区医師会副会長の万歳三唱でお開きとなりました。



伊藤先生ご夫妻



表彰状

伊藤先生におかれましては、4月中旬には、開業されるとお聞きしました。伊藤末志先生、享子先生の益々のご活躍をお祈りいたしますとともに、今後も鶴岡市の小児医療及び母子保健施策の推進に、ご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。



三科実行委員長代読
加賀山部長



祝辞
榎本市長



祝辞
三原会長



乾杯
石原荘内病院副院長



万歳三唱
土田副会長

伊藤先生の功績

☆すこやかな子どもを生み育てるネットワーク推進委員会 副部長及び推進部長（平成6年度～21年度）

本委員会の基礎となった「懇話会（平成4年度～5年度）」時代から参加され現体制への移行に大きく貢献されました。

委員会発足後は、「推進部」に所属し、父親の育児意識調査や企業・小中学校に出向いて行う「子育て出前懇談会」では、先生の専門分野であります「肥満予防」「生活リズム（特に睡眠）」「こころと体の健康」などをテーマに講演し、若い世代の子育て支援や思春期教育にご尽力されました。

☆鶴岡市母子保健計画 策定委員及び副委員長

第一次計画（平成9年5月策定）第二次計画（平成14年6月策定）第三次計画（平成20年2月策定）現計画の第四次計画（平成25年3月策定）すべての計画の策定委員としてご就任され、医師としての専門的な視点から前計画や新計画の策定に積極的に取り組み、鶴岡市の母子保健施策の推進にご尽力されました。

☆鶴岡市元気キッズ教室 専任医師（平成17年度～現在）

山形県幼児肥満予防教室（昭和62年度～平成16年度）の専任医師に引き続き、本教室の専任医師として、肥満予防の啓発や診察、個別評価など医学的な事業評価を行われ、幼児期の肥満予防に大きく貢献されています。

幼児期における肥満予防教室の受講の有無と小学校入学時の肥満状況との関係について追跡調査を行い、山形県小児保健研修会で、教室受講者に肥満の改善がみられたことの成果を報告されました。

☆鶴岡市乳幼児健康診査 医師（昭和59年度～現在）

30年間の長きに亘り、診察医として従事され、現在も乳幼児の疾病の早期発見や生活習慣改善指導などに大きく貢献されています。

3歳児健診においては、平成3年度以降と平成18年度以降の各5年間の健診結果について比較調査を行い、その分析結果について日本小児保健協会学術集会や山形県医師会会報で発表されるなど、研究活動にも精力的に取り組まれています。

☆鶴岡市予防接種対策委員会 委員（昭和58年度～現在）

鶴岡市が行う予防接種について、30年余の長きに亘り対策委員として専門的な指導を行われ、公衆衛生の向上にご尽力されています。



活動紹介コーナー

Introduction

研修医

No. 1

めぐる季節と私

鶴岡市立荘内病院研修医 角谷 梨花

医師として働き始めてからというもの、日中の時間帯は屋内にいることが多くなった。

中はいつでも空調がきいており、雨や風も吹かない。そのため、外の変化に疎くなっていることもしばしば。

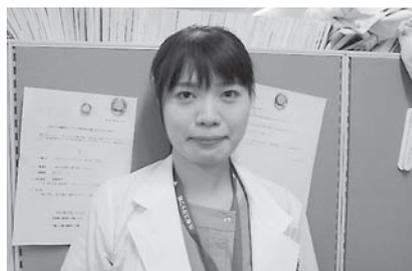
しかしそんな生活をしていても、季節の移ろいを感じとれる瞬間がある。朝と夜、家と職場への往復の時間だ。

春、真新しい制服を身につけた生徒が行き交う近所の高校。校庭の桜もほころび始め、新しい生活を応援してくれる。夏、朝日の眩しさと目が覚める。空の青がますます深くなり、雲の白とのコントラストが映える。蝉は朝も夜も鳴き通し、北国の短い夏を身体いっぱい謳っていた。秋、夜がいつの間にか、足早にやってくるようになった。

運動会で賑わっていた校庭にも、ひと仕事終わったかのようなゆっくりとした時間が流れている。不意に吹く風に首筋を撫でられ、思わぬ冷たさに身が縮こまる。足元でからからと転がる落ち葉が、なんとなく物寂しい。冬、真っ暗な夜も、一面の雪のおかげでほんのりと明るい。星や月が輝く日は特に空気が澄んでいて、空を見上げては星座を探す。吐息の雲が小さくなる頃に、再び春が訪れる。

そして、今、この場所に来て2度目の冬を迎えた。月日が経っても、研修医としてスタートした日が、ついこの間のことのように思い起こされる。何もかもが初めてで新鮮で、緊張して、右往左往していたあの時。よくわからないまま過ぎていく時間を恨んだり、自分に苛立つこともあった。しかし、これだけの日々を過ごしてきたのだ。いろんなことがあって、いろんな方々に助けられ、私自身変化しているに違いない。自分の成長を実感できることなんてなかなかいけれど、めぐる季節と同じように少しずつ少しずつ変わっている自分に、きっとふとした瞬間に気づくのだろう。

そしてまた、春が来る。次の季節を迎える私は、どんな私でいるのだろうか。



たかが「おはぎ」、されど・・・ わたしのお気に入り

「わたしのお気に入りは何？」と問われて、「はて、何かあるだろうか・・・」と考えてみた。

直ぐには思いつかず「食べ物では？」と聞かれて、「ああ、あるある！」と思いついたのが「おはぎ」である。

私は小さい頃から小豆が好物で、小学校の給食で白玉団子と小豆のぜんざいが出ると、とても幸せな気分になった記憶がある。私の



母（名は“おつき”）が甘いもの好きで、よく「おはぎ」を作ってくれた。そのせいか小豆の“スイーツ”では「おはぎ」が最も好きで、還暦を過ぎたこの歳でも定期的に食べたくなるから自分でも呆れてしまう。手に入る「おはぎ」なら何でもいいかと聞かれると、やはり私の好みがある。鶏卵サイズに丸めた半搗き餅をややすり潰した餡で包むのが基本だが、べたべたの水っぽい餡はあまり好まない。水気の少ない形のしっかりした小豆の粒が適度に塗され、小豆独特の風味が感じられるほど好い甘さの餡が美味しいのだ。しかも口に含んだ餡と餅のコラボで「おはぎ」としての好みの味が決まるので、双方の相性も重要な要素だと思っている。

数年前に学会で上京した際に、三鷹駅の売店で理想に近い「おはぎ」と出会った。それ以来しばらく納得の「おはぎ」に出会っていなかったが、最近新潟市のとあるスーパーで私の理想に近い手造り「おはぎ」を見つけてしまった。それ以来、病みつきになって新潟に行くたびに食している。私が一押し「おはぎ」を現物は無理なので写真で紹介させていただくが、実際にトライしたい方はいつでも問い合わせ願いたい。

余談になるが、息子たちが「おはぎ」好きの私を見て「おつきの息子は、おはぎが好きだね・・・」とからかう始末である。
(上野整形外科 上野 欣一)

平成27年度 医師会勉強会日程のお知らせ

4月17日(金)	長谷川敏彦 先生	未来医療研究機構代表理事 (元日本医科大学 特任教授)
6月5日(金)	高野 登 先生	元ザ・リッツカールトンホテル日本支社長
8月19日(水)	渋谷 一敬 先生	株式会社PDS代表 (認定超音波検査士、診療放射線技師)
10月9日(金)	藤沼 康樹 先生	医療福祉生協連 家庭医療学開発センター長

表 紙

「雪の稜線」

三原 一郎

雪山が大好きなのですが、青空と雪山との組み合わせに巡り合うチャンスは意外に少ないものです。今年も1月14日、丁度当院の休診日に晴れてくれました。早速、スノーボードを抱え出かけたついでに撮った月山です。撮影場所は月山第2トンネルの山形方面の出口周辺。

編 集 後 記

暦の上では立春が過ぎ春を迎えました。日本中を見ると雪が多く被害のある地域も報道されておりますが、鶴岡市内では例年通りかあるいは若干少ない降雪量と思います。今年も早いものでもう12分の1を過ぎ、節分には“鬼は外、福は内”の豆まきをされたことと思います。年の初めより海外でのテロ行為による日本人の犠牲者が出たことは世界中に大きな衝撃をもたらしました。地球上にいる人すべてが仲良く暮らすことができるように、宗教、信念の違いは理解しあい協力できる世界になることを望みたいと思います。鬼がいなくなり福が沢山入り込むように、羊年は皆さん平和で健康に過ごせる年となることを念じざるを得ません。めでいかすとる2月号より“勤務医の思い”のコーナーを再開し、新鮮な感想をいただくこととして荘内病院等で初期臨床研修を開始した先生方の思いを次々に書いていただく予定です。新しい感性にご期待ください。また彼、彼女たちを見かけられましたら応援とご指導をお願いいたします。

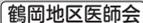
(三科 武)



編集委員：三浦 道治・福原 晶子・三科 武・斎藤 高志・中村 秀幸・伊藤 茂彦

発行所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jp

ホームページにも掲載しております  URL <http://www.tsuruoka-med.jp>